



環境省

環境省自然環境局

平成12年4月

平成13年3月

平成16年8月

平成19年3月

平成21年3月

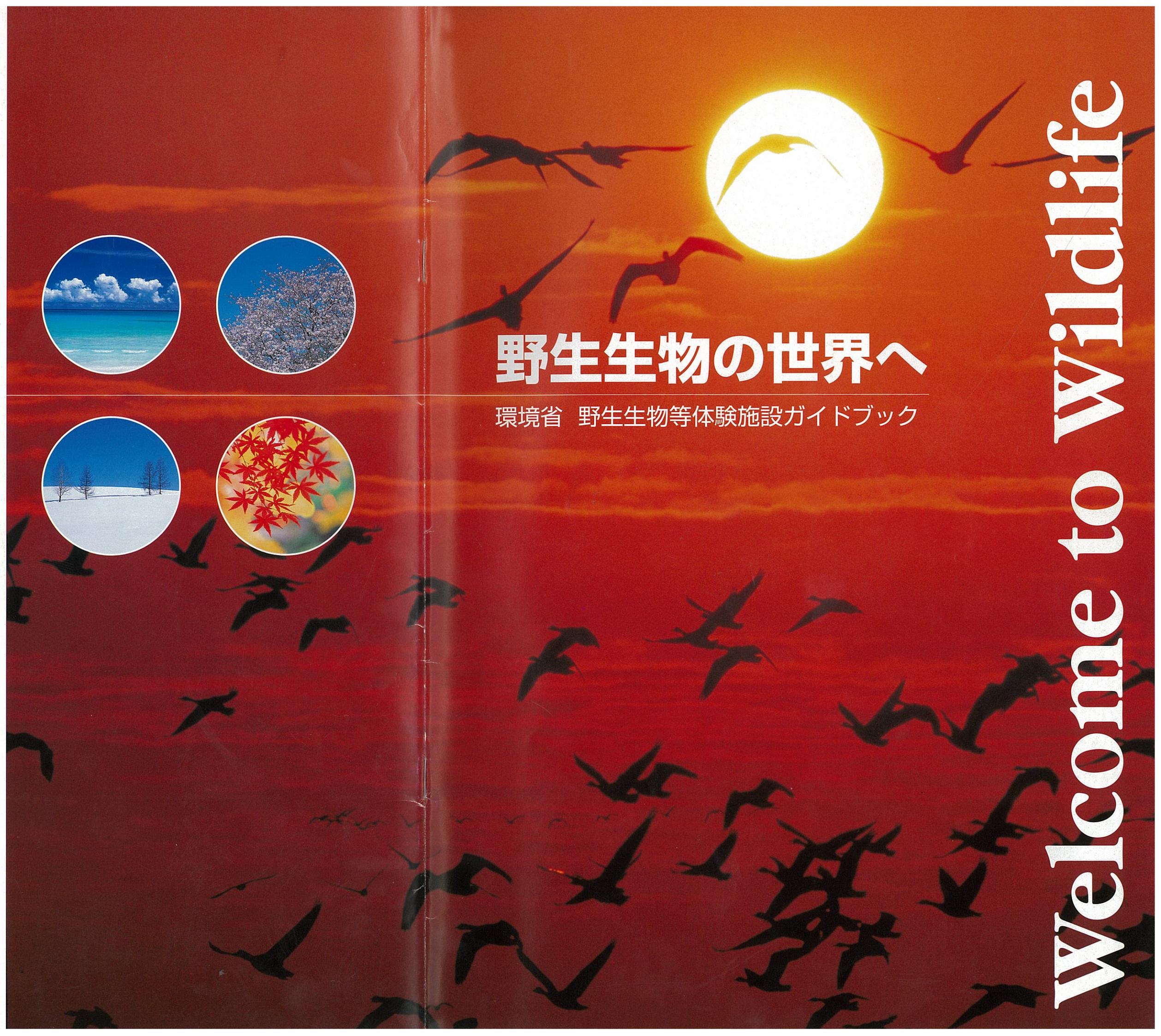
〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関1-2-2

TEL 03-3581-3351 (代表)

ホームページアドレス

<http://www.env.go.jp/nature/index.html>

このパンフレットは再生紙を使用しています。



# 野生生物の世界を体験してみませんか？

希少な  
野生生物  
の世界



水鳥の世界



野生鳥獣の世界



世界に誇る  
自然を構成する  
野生生物  
の世界



サンゴ礁や  
地域の野生生物  
の世界



# 概説・目次

## ■野生生物保護センター

—種の保存法（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）—に基づき指定された「国内希少野生動植物種」をはじめとする地域特有の野生生物を対象として、展示や映像等により来訪者への解説や普及啓発を行うとともに、希少な野生生物の保護増殖事業、調査研究等を総合的に推進するための拠点施設です。

- 釧路湿原野生生物保護センター：シマフクロウ、タンチョウ等を対象 ..... 4
- 北海道海鳥センター：ウミガラス、エトピリカ等の海鳥を対象 ..... 5
- 猛禽類保護センター：イヌワシ、クマタ力等の猛禽類を対象 ..... 6
- 佐渡トキ保護センター：トキを対象 ..... 7
- 対馬野生生物保護センター：ツシマヤマネコ等を対象 ..... 8
- 奄美野生生物保護センター：オオトラツグミ、アマミヤマシギ、アマミノクロウサギ等を対象 ..... 9
- やんばる野生生物保護センター：ノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネ、ヤンバルクイナ等を対象 ..... 10
- 西表野生生物保護センター：イリオモテヤマネコ等を対象 ..... 11

## ■水鳥・湿地センター

—ラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）—に登録されており、特に渡り鳥が飛来する湿地において、展示や映像等により来訪者への解説や普及啓発を行うとともに、水鳥及び湿地の観察、調査研究等を推進するための拠点施設です。

- 浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館：コハクチョウ等の渡来地 ..... 12
- 厚岸水鳥観察館：オオハクチョウ等の渡来地 ..... 13
- ウトナイ湖野生鳥獣保護センター：ガン、カモ、ハクチョウ等の渡来地 ..... 14
- 佐潟水鳥・湿地センター：ガン・カモ類等の渡来地 ..... 15
- 琵琶湖水鳥・湿地センター：コハクチョウ、ヒシクイ等の渡来地 ..... 16
- 漫湖水鳥・湿地センター：シギ・チドリ類等の中継地 ..... 17

## ■野生鳥獣保護センター

—展示や映像により来訪者への解説や普及啓発を行うとともに、鳥獣の生息に適した環境の保全・形成を行うための拠点施設です。

- 森吉山野生鳥獣センター：クマゲラ等を対象 ..... 18

## ■世界遺産センター

—世界遺産条約（世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約）—の登録地において、遺産としての価値を将来にわたって保全していくことを目的とした保全・管理、展示や映像等による来訪者への解説や普及啓発、調査研究等を推進するための拠点施設です。

- 白神山地世界遺産センター（西目屋館） ..... 19
- 白神山地世界遺産センター（藤里館） ..... 20
- 屋久島世界遺産センター ..... 21

## ■その他

本パンフレットでは次の施設についても紹介します。

- 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター ..... 22
- 生物多様性センター ..... 23
- ビジターセンター（博物展示施設） ..... 24.25.26.27
- 国民公園 ..... 28
- 環境省自然保護事務所一覧 ..... 29

## 全国分布図



コハクチョウ



ヤナギラン



## Kushiro-shitsugen Wildlife Center

### 釧路湿原野生生物保護センター



釧路湿原野生生物保護センターは、わが国最大の釧路湿原や野生生物の保護管理への取り組みのモデル施設として設置されました。センターでは、釧路湿原を訪れる多くの方々に、シマフクロウやタンチョウなど絶滅のおそれのある野生生物の現状や湿地生態系について解説し、保護への理解や関心を深めていただく普及啓発活動を行っています。



■開館時間：午前10時～午後5時  
■休館日：夏期（4月下旬～10月31日）無休  
冬期（11月1日～4月下旬）毎週土日・祝日、年末年始  
■住所：北海道釧路市北斗2-2101  
■電話：0154-56-2345  
■ライブ映像：シマフクロウ・タンチョウ  
<http://www.sizenken.biodic.go.jp/pc/live/html/index.html> (インターネット自然研究所)



シマフクロウ

#### ■地域の特性

釧路湿原は広大な水平的景観を特徴としており、昭和62年に28番目の国立公園に指定されています。約1万8千haに及ぶ湿原の大半はキタヨシ・スゲ類・ハンノキ林からなる低層湿原で、一見単調に見えますが、ミズゴケが堆積した高層湿原や、蛇行する河川、湖沼群などさまざまな環境を含んでいます。またタンチョウやイトウ、キタサンショウウオといった希少な野生生物が生息しています。釧路湿原の主要部分は「ラムサール条約湿地」として登録されました。

#### ■施設

##### 1. 展示

センターは、研究施設と一般向けの展示室に分かれています。展示室では北海道東部の野生生物や湿地の保護などについてパネルを展示し紹介しています。また、野外ケージでリハビリ中のシマフクロウの映像を見ることができます。

##### 2. 研究施設として

センターには、調査・研究の共同利用施設としての役割もあります。具体的には湿原のモニタリング等の調査、研究を総合的に実施し、調査データ等の集積を行つ

ています。また野生生物の保護、増殖や湿原の保全の基礎となる野生生物の生息状況調査も実施しています。

#### ■活動の概要

##### 1. リハビリテーション

傷ついたシマフクロウを収容し治療した後、野生復帰させるための施設として、フライングケージを設置しています。リモートカメラ等で、個体の監視と生態観察も行っています。

##### 2. モニタリング

シマフクロウの生息・繁殖状況を調査しその生態を解明するために、毎年標識調査を行っています。

##### 3. 普及啓発活動

釧路湿原国立公園パークボランティアの活動拠点として利用され、自然観察会や湿原に関する勉強会等を開催しています。



展示室の様子

## Hokkaido Seabird Center

### 北海道海鳥センター

Hokkaido Seabird Center



北海道海鳥センターは、北海道の海鳥類を中心とした野生生物保護への理解を深めるための普及啓発活動や、保護増殖活動、調査研究を行うための拠点として北海道羽幌町に設置されました。センターでは「種の保存法」に指定されているウミガラス・チシマウガラス・エトピリカの保護増殖活動などを行っています。



■開館時間：午前9時～午後5時  
■休館日：毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始  
■住所：北海道苦前郡羽幌町北6条1丁目  
■電話：0164-69-2080  
■管理協力：羽幌町  
■メールアドレス：[seabird@town.haboro.hokkaido.jp](mailto:seabird@town.haboro.hokkaido.jp)  
■ホームページ：<http://www3.town.haboro.hokkaido.jp/seabird/>



ウミガラス ©寺沢孝毅

#### ■地域の特性

センターがある羽幌町の沖合約24kmに浮かぶ、周囲12kmの島「天売島」には、ウミガラスをはじめとする8種類、約数十万羽の海鳥が生息しています。この規模の島で、人間と数多くの海鳥が共生している場所は、世界的にみてもあまり例がありません。

#### ■施設

##### 1. 展示

センターには海鳥繁殖地のジオラマと、天売島のジオラマがあります。海鳥繁殖地のジオラマは、西海岸にある繁殖地の崖面でヒナを育てる海鳥の巣の様子をリアルに再現しています。天売島のジオラマは、人々と動植物の暮らしづくりを四季を通して再現しています。併設された映像ホールでは、四季を通して繰り広げられる鳥類の産卵から成育、魚類など野生生物の営みを、それぞれの視点から紹介しています。また自然環境と人間の共生を表現しつつ、エコ・ツーリズムの考え方や島を探訪する際の心得なども併せて紹介しています。

#### ■活動の概要

##### 1. 調査・研究

ウミガラスの保護増殖事業計画や分科会の事業計画

に基づき、ウミガラス等の生息モニタリング調査やデコイの設置による誘引等の保護対策を実施しています。

#### 2. 普及啓発活動

展示施設を中心に、自然観察会の開催、研修会などを実施しています。またパンフレット等を発行し、地域住民を含めた一般の方々に、海鳥の保護の重要性や自然環境全般の理解を深めていただくための活動を行っています。



エトピリカ ©寺沢孝毅

ジオラマ

## Raptors Conservation Center 猛禽類保護センター



山形県と秋田県の県境にある鳥海山の南麓に設置された猛禽類保護センターは、イヌワシをはじめとした猛禽類について、研究・保護活動を行うとともに、多くの方々に自然環境との関わり、それらをとりまく環境の重要性について理解していただくことを目的としています。



- 開館時間：午前9時～午後4時30分
- 休館日：年末年始（12月28日～1月4日）
- 住所：山形県酒田市草津字湯ノ台71-1
- 電話：0234-64-4681
- 管理協力：山形県八幡町
- ホームページ：<http://www.raptor-c.com/>



イヌワシ

### ■地域の特性

秋田富士、出羽富士と称される鳥海山は、古くから山岳信仰の対象として大切にまもられてきました。その鳥海山系をテリトリーとするイヌワシは、現在4つがいと考えられています。センター開設地の山形県飽海郡八幡町は、「イヌワシ」を町の鳥に制定し、「八幡町イヌワシ保護対策協議会」を設立、イヌワシ保護に積極的に取り組んでいる町です。

### ■施設

#### 1. 展示

展示は、ジオラマ、パネル展示、映像システムなどをを利用して行われます。

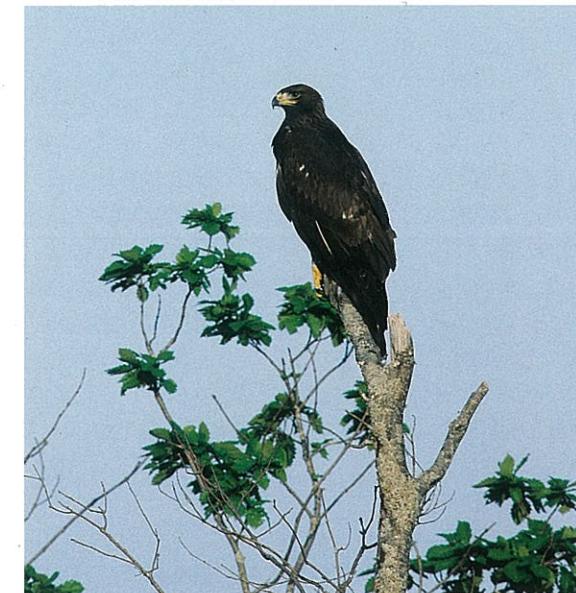
### ■活動の概要

#### 1. 調査・研究

猛禽類の生息状況や生息地の状況等のモニタリングを通して、採食行動、繁殖行動等を把握するとともに、分布や生態に関する情報収集を行います。また将来的に人工繁殖を図るために必要な調査・研究を行っています。

### 2. 普及啓発活動

展示施設や、鳥海山をフィールドとした体験学習、自然観察会の開催、研修会などの実施により、地域住民を含めた一般の方々に、猛禽類の保護の重要性を理解していただくとともに、猛禽類を通じて自然環境全般の理解を深めていただくことを目的としています。



イヌワシ

## Sado Japanese Crested Ibis Conservation Center 佐渡トキ保護センター



佐渡トキ保護センターは、「トキ」の保護増殖に取り組むための施設として、新潟県佐渡市に設置されました。平成15年10月に日本の野生産最後のトキ「キン」が死亡しましたが、平成11年1月に、中国から「友友」「洋洋」のペアが寄贈されて以来、繁殖が順調に進み、平成21年3月現在100羽を超えるまで回復しています。



- 開館時間：午前8時30分～午後5時
- 休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合翌日）、年末年始
- 住所：新潟県佐渡市新穂長戸377番地4
- 電話：0259-22-2445
- 管理協力：新潟県環境企画課、佐渡市新穂支所
- ホームページ：<http://www4.ocn.ne.jp/~ibis/>



ヨウヨウ ヤンヤン  
友友と洋洋

### ■地域の特性

絶滅の危機に瀕しているトキ（学名 *Nipponia nippon*）は、江戸時代、北海道から九州まで普通に見られる鳥でした。トキの風切羽はとき色と称される美しいもので、昔から珍重されたようです。しかし明治以降、その数は激減し「トキの里」新潟県新穂村（現佐渡市）では、昭和34年にトキの給餌をスタートするなど、トキの保護に積極的に取り組んできました。

### ■施設

#### 1. トキ資料展示館

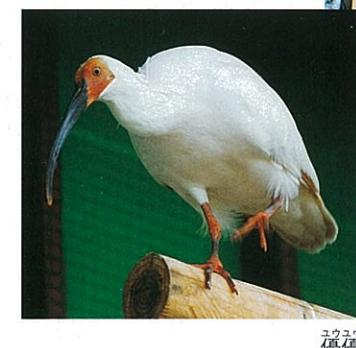
トキ資料展示館では、トキの生態、トキ保護の歴史などをパネル等によって解説しています。また、平成7年に死亡した「ミドリ」及び「キン」の剥製と骨格標本を展示しています。モニターで「友友」「洋洋」等の映像を見ることができます。

#### 2. 飼育ケージ

センターでは昭和57年からトキの人工繁殖に取り組んできましたが、日本の野生産のトキでは、その夢は叶いませんでした。しかし中国から寄贈された、「友友」「洋洋」のペアから日本で初めて人工繁殖により「優優」が誕生しました。これ以降、トキの人工繁殖が順調に進んでいます。



トキ資料展示館



ユウユウ  
優優

## Tsushima Wildlife Center

# 対馬野生生物保護センター



対馬野生生物保護センターは、ツシマヤマネコなど絶滅のおそれのある野生生物の生態や現状について解説し、野生生物保護への理解や関心を深めていただくための普及啓発活動や、希少な野生生物の保護増殖事業、調査研究業務を総合的に実施するための拠点施設として設置されました。



■開館時間：午前10時～午後4時30分（入館は4時まで）  
■休館日：毎週月曜日、祝祭日の翌日（月曜日が祝日の場合は翌日）、年末年始  
■住所：長崎県対馬市上県町棹崎公園  
■電話：0920-84-5577  
■管理協力：長崎県自然保護課・上県町  
■メールアドレス：RO-TSUSHIMA@env.go.jp  
■ホームページ：<http://twcc.cool.ne.jp/>  
■ライブ映像：ツシマヤマネコ  
<http://www.sizenken.biodic.go.jp/pc/live/html/index.html>（インターネット自然研究所）



ツシマヤマネコ

### ■地域の特性

対馬市上県町は対馬島の最北西に位置し、韓国との距離は海を隔ててわずか49.5km。このような地理的条件から大陸との関係が深く、生物相や文化遺産もその影響を受けていると考えられています。ツシマヤマネコも、約10万年前に、当時陸続きだった大陸から渡ってきたと考えられ、ベンガルヤマネコの亜種とされています。日本では対馬にのみ分布し、「とらやま」と呼ばれることもあります。昭和46年に国の天然記念物、平成6年には国内希少野生動植物種に指定されました。平成17年9月の調査により約80～110頭が生息していると推定されています。

### ■施設

#### 1. 展示

展示室では、ツシマヤマネコについてパネルや映像で詳しく解説しています。また、ツシマヤマネコが利用する代表的な3つの自然環境をジオラマにより再現しています（レクチャールームでは3本の映像ソフトを用意し、希望者へ随時上映しています）。

またツシマヤマネコの問題を身近に感じてもらうために、平成15年12月より、野生復帰が困難なツシマヤマネコを一般に公開しております。

#### 2. 保護増殖事業の拠点としての役割

センターはツシマヤマネコの生息核心地域にあり、ツシマヤマネコを中心に、対馬の野生生物についての情報収集・公開を行っています。またツシマヤマネコの保護増殖事業の拠点施設として機能しています。

### ■活動の概要

#### 1. 調査・研究

ツシマヤマネコの現在の生態、個体数、生息密度等を推定するため、痕跡調査や自動カメラの設置等を行い、生息状況の調査を行っています。

#### 2. 保護増殖事業

ツシマヤマネコ等の傷病個体の保護、検査を行い、野生復帰可能な個体についてはリハビリテーションを行っています。また、動物園と協力してツシマヤマネコの人工繁殖に取り組んでいます。

#### 3. 普及啓発活動

季刊誌「とらやまの森」を発行するとともに、対馬の自然を紹介するホームページにより積極的に情報発信したり、ツシマヤマネコの交通事故防止キャンペーン等を実施しています。また、行政機関等の視察、学校等団体の遠足、総合学習などの要請に応じて、解説やレクチャー等を行うとともに、自然観察会の開催や、ツシマヤマネコと共に存する地域社会づくりを行っため住民との座談会を行っています。

また、ツシマヤマネコの交通事故防止キャンペーン等を実施しています。



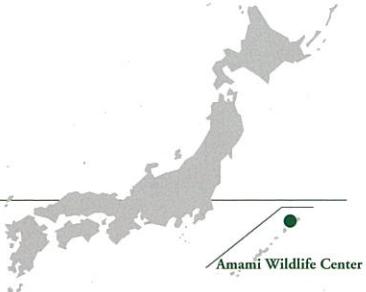
ツシマテン



一般公開中の運動場

## Amami Wildlife Center

# 奄美野生生物保護センター



奄美野生生物保護センターは、奄美諸島に生息するアマミノクロウサギ、オオトラツグミ、アマミヤマシギなどの希少な野生生物や奄美固有の生態系について解説し、野生生物保護への理解や関心を深めていただく普及啓発活動や、絶滅のおそれのある野生生物の保護増殖事業、調査研究などを総合的に行うための拠点として設置されました。



■開館時間：午前10時～午後4時30分  
■休館日：毎週月曜日、みどりの日および子どもの日を含む祝日、年末年始  
■住所：鹿児島県大島郡大和村思勝字屋ノ畑551番地  
■電話：0997-55-8620  
■管理協力：鹿児島県環境保護課、大和村等  
■メールアドレス：RO-AMAMI@env.go.jp



オオトラツグミ（撮影）中村友洋

### ■地域の特性

奄美諸島には、地史的な成立過程と海流や気候的な背景が重なり合うことで、熱帯地域の北限種や、温帯地域の南限種、長い時間を超えて奄美にだけ生き続ける遺存種などの貴重な野生生物が生息しています。また、島という閉鎖的な条件にあるため、大陸に比べて絶滅が生じやすく、かつ、今も独自の進化を続けており、世界的にも貴重な自然環境を有しています。

### ■施設

#### 1. 展示

展示室では、「奄美諸島の動植物と人々のくらし」をテーマに、黒潮の流れにのって、与論島から喜界島まで島をめぐります。島ごとに特徴的な生態系とそこに生息する野生生物及び生態系に育まれた島人の豊かなくらしについて展示し、全ての島をめぐると奄美諸島全体の自然の大切さを学ぶことができます。奄美の野生生物を紹介する「奄美の森の生きものたち」を上映するほか、実際の生きものに出会うため、「生きもの掲示板」で最新の奄美の野生生物の情報を提供しています。

### ■活動の概要

#### 1. 調査・研究

オオトラツグミ、アマミヤマシギを対象とした保護増殖事業を実施しています。オオトラツグミでは巣立ち前の幼鳥の餌動物として重要なミミズを中心とした土壤環境調査と、さえずりの確認による分布調査を実

施しています。また、アマミヤマシギではラジオトラッキングによる生態調査と、年2回の奄美大島、加計呂麻島、徳之島全域の分布調査を実施しています。

#### 2. 外来種駆除

奄美大島では、外来種であるジャワマンガースによる捕食などにより在来種が減少するなど、生態系への悪影響が見られています。平成12年度からマンガース駆除事業を開始し、3年間で3分の2ほどを駆除しています。根絶は容易ではありませんが、多くの課題を抱えながらも生態系の復元に向けた取り組みが進められています。

#### 3. 普及啓発活動

展示はもとより、自然観察会の開催や講演会を実施しています。また、パンフレット等を発行し、多くの方々に、奄美の野生生物の希少性や保護の必要性を理解していただくための活動を行っています。



アマミノクロウサギ



©濱田康作

## Yambaru Wildlife Center

### やんばる野生生物保護センター



やんばる野生生物保護センターは、やんばるを訪れる人々に野生生物保護への理解や関心を深めていただくための普及啓発活動や、ノグチゲラ、ヤンバルクイナなどやんばるの絶滅のおそれのある野生生物の保護増殖事業、調査研究などを総合的に行うための拠点施設として設置されました。



■開館時間：午前10時～午後4時30分  
■休館日：毎週月曜日、みどりの日および子どもの日をのぞく祝日  
6月23日（慰霊の日）、年末年始  
■住所：沖縄県国頭郡国頭村比地263番地の1  
■電話：0980-50-1025  
■管理協力：沖縄県、国頭村、大宜味村、東村  
■メールアドレス：RO-YANBARU@env.go.jp  
■ライブ映像：やんばるの照葉樹林  
<http://www.sizenken.biodic.go.jp/pc/live/html/index.html>（インターネット自然研究所）



ノグチゲラ ©久高将和

#### ■地域の特性

沖縄本島北部地域は山原（やんばる）と呼ばれ、山や森が多いという意味です。本島最高峰の海拔503mの与那嶺岳を中心に山々が連なり、イタジイ、オキナワウラジロガシなどの亜熱帯照葉樹林が広がり、多くの固有性の高い野生生物が生息しています。

#### ■施設

##### 1. 展示

展示のテーマは次の3つの関連性（つながり）です。  
①環境と環境どうしのつながり②多様な生き物どうしのつながり③やんばるの人々と自然とのつながり。展示「水系をたどる旅」では、イノー（サンゴ礁）からやんばるの森まで、森の恵みが水の流れを通じて、サンゴ礁の豊かさを支えていることを学べます。入館者の目撲情報で作る「生き物掲示板」では野生生物の観察情報を提供します。その主な観察データは「パソコン生き物図鑑」で検索閲覧できます。ライブラリーでは、親しみやすい環境学習や自然の絵本、図鑑類など約2000冊をそろえています。

#### ■活動の概要

##### 1. 保護増殖事業

ノグチゲラについては、的確な保護対策を行うため、生息状況や生態等について調査を実施し、平成11年か

ら個体識別用の足環をつけて追跡調査を行っています。ヤンバルテナガコガネについては、緊急保護個体を用いた生態情報の収集や密猟対策を継続的に行っており、生息状況調査や遺伝的分析も始まりました。また、希少種を保護するために、外来種の防除やヤンバルクイナなど希少種の生息状況の把握にもつとめています。

#### 2. 普及啓発活動

センターでは、観察会と講演会を年3～4回開催しています。やんばるの自然を疑似体験できるという特徴のある展示内容を生かし「環境との共生」「人間と自然との関わり」について、総合的な学習や生涯学習の格好の教材として活用されています。



ヤンバルテナガコガネ ©久高将和



ヤンバルクイナ ©久高将和



森の劇場



新緑の森 ©久高将和

## Iriomote Wildlife Center

### 西表野生生物保護センター



西表野生生物保護センターは、西表島を訪れる方々に野生生物保護への理解や関心を深めていたくための普及啓発活動、イリオモテヤマネコをはじめとする西表の絶滅のおそれのある野生生物の保護増殖事業、調査研究などを総合的に行うための拠点施設として設置されました。



■開館時間：午前10時～午後4時  
■休館日：毎週月曜日、子どもの日および文化の日をのぞく祝日、6月23日（慰霊の日）  
年末年始（12月29日～1月3日）  
■住所：沖縄県八重山郡竹富町字古見  
■電話：0980-85-5581  
■管理協力：沖縄県自然保護課、竹富町  
■メールアドレス：RO-IRIOMOTE@env.go.jp  
■ライブ映像：西表島のマンゴロープ・イリオモテヤマネコ  
<http://www.sizenken.biodic.go.jp/pc/live/html/index.html>（インターネット自然研究所）



イリオモテヤマネコ ©横塚眞己人

#### ■地域の特性

沖縄本島から南西に約470kmのところに位置する西表島を含む八重山諸島は、沖縄の本土復帰とともに国立公園に指定されました。西表島の名前を全国的に有名にしたのは、1967年に新種記載された「イリオモテヤマネコ」の存在で、現在約100頭が生息すると推定されています。イリオモテヤマネコのほかにも、島のほとんどを山岳が占める西表島は、熱帯・亜熱帯の原生林に覆われ、世界的に貴重な野生生物が生息しています。

#### ■施設

##### 1. 展示

展示室では、西表の自然環境と野生生物、特にイリオモテヤマネコに関しては形態的特徴、生態、生息状況、保護対策などについて科学的データをもとにパネルや標本などを使用して解説しています。また西表島の動植物の最新の目撲情報を記録するための「生き物掲示板」を設置しています。

#### ■活動の概要

##### 1. モニタリング

イリオモテヤマネコの個体数や行動圏、個体の健全性等、その保護を図る上で不可欠なデータの収集のた

め、大学等と協力して、自動撮影、ラジオトラッキング、臨床病理検査などの調査を行っています。

#### 2. リハビリテーション

交通事故等で負傷した個体を治療し、野生復帰させるための施設としてリハビリ室と野外ケージを設置しています。またリモートカメラ等を通じたリハビリ個体の監視と生態観察も行っています。

#### 3. 普及啓発活動

イリオモテヤマネコの交通事故防止のための説明会、街頭広報、リーフレットの配布、道路標識の設置などのキャンペーン活動を関係機関と連携して行っています。また西表国立公園パークボランティア連絡会が、センターを拠点として自然観察会の開催や自然観察マップの作成などを行っており、これらの活動を通じて野生生物保護について広く普及を図っています。



展示室の様子



交通事故防止キャンペーン

## Hamatombetsu Kutcharo-ko Waterfowl Observation Center 浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館

浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館は、「ラムサール条約」に登録されたクッチャロ湖を保護・保全し、適正な利用を推進するために設置されました。観察館は、湿地や水鳥のことを楽しく学んで、湿地の保全や賢明な利用について考え、実行するきっかけ作りの役割も果たしています。



■開館時間：午前9時～午後5時  
■休館日：毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始  
■住所：北海道枝幸郡浜頓別町クッチャロ湖畔  
■電話：01634-2-2534  
■管理協力：浜頓別町  
■メールアドレス：hamaton@eolas-net.ne.jp  
■ホームページ：<http://www.eolas-net.ne.jp/hokkaido/hamatombetsu>  
■ライブ映像：クッチャロ湖  
<http://www.sizenken.biodic.go.jp/pc/live/html/index.html>（インターネット自然研究所）



クッチャロ湖と水鳥たち

### ■地域の特性

クッチャロ湖とその周辺の湿地には、秋から春にかけてコハクチョウをはじめとしたカモ類が集まり、夏にはオジロワシやカワセミなどが子育てに利用し、冬にはオオワシや海ガモ類が渡って来ます。また春から夏にかけてエゾカンゾウやノハナショウブなどの草花が美しい花を咲かせます。

### ■施設

#### 1. 展示

展示室は「水鳥」「動物」「野鳥」の3つのコーナーに分かれています。「水鳥」コーナーには、クッチャロ湖に渡来するコハクチョウなどの剥製標本が展示されています。また、マルチビジョンでは、クッチャロ湖に渡来する水鳥たちの様子を見ることができます。

#### 2. 普及啓発活動

年に7回開催される自然観察会を通じてクッチャロ湖の自然や水鳥に対する理解を深めていただくよう活動しています。また、情報誌「クッチャロ湖」通信を月に一度配布しています。



### ■活動の概要

#### 1. 調査・研究

昭和48年から行われているハクチョウの飛来数の確認を継続して実施しています。また、ハクチョウについては標識調査を、生態等を確認するための資料としています。



## Akkeshi Waterfowl Observation Center 厚岸水鳥観察館

厚岸水鳥観察館は、「ラムサール条約」に登録された厚岸湖・別寒辺牛地区において、水鳥をはじめとする野生生物と、湿地の保全や湿原の賢明な利用について理解を深めていただくための普及啓発活動や、調査・研究、監視等を行う拠点施設として設置されました。



■開館時間：夏期（4月～10月）午前9時～午後5時  
冬期（11月～3月）午前9時～午後4時  
■休館日：毎週月曜日（祝祭日と重なる場合は翌日）、年末年始  
■住所：北海道厚岸郡厚岸町サンヌシ66  
■電話：0153-52-5988  
■管理協力：厚岸町  
■メールアドレス：[bekan@marimo.or.jp](mailto:bekan@marimo.or.jp)  
■ホームページ：<http://www.marimo.or.jp/AWOC/>  
■ライブ映像：厚岸湖・別寒辺牛湿原  
<http://www.sizenken.biodic.go.jp/pc/live/html/index.html>（インターネット自然研究所）



厚岸湖と水鳥たち

### ■地域の特性

厚岸は牡蠣の産地として昔から栄えてきました。厚岸湖に注ぐ別寒辺牛川と、その支流のトライベツ川の合流点にあたる場所で、平成元年、面積100ha以上の高層湿原が発見されました。そこではガンコウランやヤチヤナギなど高層湿原特有の植物や、希少な植物が発見され、平成5年には、ラムサール条約に登録されました。

### ■施設の概要

#### 1. 展示

センター内は展示室、レクチャールーム、観察コーナーに分かれています。展示室では観察カメラがとらえた湿原の映像を大画面で見られるほか、湿原の全容について写真や解説パネル、立体模型などで学習することができます。また湿原の最新情報の提供や、別寒辺牛川でのカヌーのルールやマナーについての指導も行っています。観察コーナーでは、別寒辺牛川河口付近の雄大な湿原の景観や、湿原で営巣するタンチョウなど多くの水鳥を観察することができます。

### ■活動の概要

#### 1. 調査・研究

タンチョウの行動調査、カモ類（特にオオハクチョウ）の飛来数および分布観察、オオワシ・オジロワシの飛来数調査、観察館周辺に出現する鳥獣調査（おもに観察カメラを利用）などの調査・研究を行っています。また、厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助制度を立ち上げ、調査・研究者に対する補助を行っています。

#### 2. 普及啓発事業

年に4～5回開催される「別寒辺牛湿原講座」のほか、4～11月の間、毎月行われている探鳥会は厚岸湖周辺の道有林内にて、山林性、湿原性の野鳥を観察します。12～3月の間は厚岸湖周辺で水鳥やワシ類を観察します。また「写真コンテスト」や「バードカービング講座」なども開催しています。



水鳥観察館と別寒辺牛湿原

## Utonai-ko Wildlife Center

### ウトナイ湖野生鳥獣保護センター



ウトナイ湖野生鳥獣保護センターは、「ラムサール条約」に登録されたウトナイ湖において、周辺を含めた環境が鳥獣の良好な生息地として保全、維持され、また、自然観察を通じた自然保护や野生鳥獣との適正なふれあいを図る普及啓発事業をはじめ、鳥獣保護区周辺における傷病鳥獣の収容、リハビリ等を行う拠点施設として設置されました。



■開館時間：午前9時～午後5時  
■休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）  
■住所：北海道苫小牧市字植苗156-26  
■電話：0144-58-2231  
■管理協力：苫小牧市  
■ホームページ：<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/kankyo-seikatu/utonaikohp/>



身近で観察できる水鳥等

#### ■地域の特性

ウトナイ湖は、周囲約9km、面積275ha、水深0.6mの淡水湖です。アイヌ語で「小さな川の流れが集まるところ」という語源を持つこの湖は、美々川をはじめトキサタマップなどの清流が注ぎ、湖の周辺には、原野、湿原などウェットランドとしての豊かな自然環境が形成され、動植物等の宝庫、野鳥の楽園といわれ、四季を通じて野鳥とのふれあいが楽しめます。特に鳥類は250種以上が確認され、ガン、カモ、ハクチョウなどの渡り鳥にとっては重要な中継地、越冬地になっており、平成3年にはラムサール条約に登録されました。

#### ■施設の概要

センター内は、展示ホール、レクチャールーム、傷病鳥獣治療室等に分かれています。展示ホールでは、ウトナイ湖を取り巻く生態系を大画面の描画で見られる外、湿原の歴史や働き、周辺環境の変化、ラムサール条約登録地の意義等を紹介しています。レクチャールームでは、渡り鳥の営み等ウトナイ湖の四季の生態系などを150インチ大型スクリーンで紹介しています。

また、ウトナイ湖の自然に直接ふれあうことが出来るよう、自然観察歩道、観察舎等を設置しています。

#### ■活動の概要

##### 1. リハビリテーション

治療室、リハビリケージでは、周辺地域で保護された傷病鳥の野生復帰のための治療を行っています。また、傷病鳥に対する基礎的な救護方法について、野鳥救護ボランティア養成実技講習会を開催しています。

##### 2. 普及啓発活動

季節毎のバードウォッチング、ガイドウォークの開催、毎週日曜日の初心者向けショートプログラムの開催、市民ギャラリーの展示等を行っています。

また、毎月ウトナイ湖の情報などを伝える「ウトナイ湖通信」を発行しています。



展示ホール

## Sakata Waterfowl and Wetland Center

### 佐潟水鳥・湿地センター

Sakata Waterfowl and Wetland Center



佐潟水鳥・湿地センターは平成8年に佐潟が「ラムサール条約」に登録されたことから、水鳥の保護と湿地の保全推進を目的として設置されました。



■開館時間：午前9時～午後4時30分  
■休館日：毎週月曜日（祝日と重なる場合は翌日）、年末年始  
■住所：新潟県新潟市赤塚5404番地1  
■電話：025-264-3050  
■管理協力：新潟市



佐潟と水鳥たち

#### ■地域の特性

佐潟周辺は、砂丘特有のゆるやかな斜面と湖面とのコントラストが大変美しいところです。砂丘斜面は、スイカ・タバコ・大根などが栽培され、それぞれの季節ごとに、微妙な変化を見せ、角田山を背景とする自然景観の美しさを醸し出しています。

佐潟は古くから、周辺の灌漑用水源としての利用と、潟内の蓮根の採取や漁獵などにより、地域の人々の生活に密接に関わってきました。今日では漁獵と盆花用のハスの花取りのほか、環境NGOによる蓮根取りが行われています。

#### ■施設

##### 1. 展示

展示コーナー兼レクチャースペースと、観察スペースに分けられた館内には、100インチのマルチビジョンを設置し、池畔にある2台のカメラを通して湿地の様子を観察することができます。また観察スペースにはフィールドスコープ10台が設置されています。

#### ■活動の概要

##### 1. 調査・研究

佐潟の保全を目的とし、ラムサール条約の精神を踏襲し「湿地やその周辺環境に関する学術的調査・研究

を支援」するため、新潟市では、平成10年度に佐潟学術研究奨励補助金制度を創設し、全国に調査・研究を呼びかけています。また研究結果は報告書としてまとめられ、センターで閲覧することができます。

##### 2. 普及啓発活動

「佐潟市民探鳥会」などの行事の開催、また佐潟ボランティア解説員による自然解説活動などを通じ、一般の方々に広く佐潟の自然を理解していただけるよう活動しています。また佐潟の近況を季刊誌にまとめ、全国の登録湿地、市内小中学校、センター来訪者に配布しています。

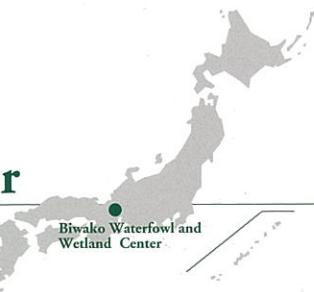


観察スペース



夏の佐潟

## Biwako Waterfowl and Wetland Center 琵琶湖水鳥・湿地センター



琵琶湖水鳥・湿地センターは、琵琶湖が「ラムサール条約」に登録されたことから、水鳥をはじめとする野生生物と、湿地の保全や湿原の賢明な利用について理解を深めていただくための普及啓発活動や、調査・研究、監視等を行う拠点施設として設置されました。



■開館時間：午前9時～午後4時30分  
■休館日：毎週月曜日、火曜日（祝祭日と重なる場合は翌日）、年末年始  
■住所：滋賀県東近江市湖北町今西  
■電話：0749-79-8022  
■管理協力：湖北町  
■メールアドレス：nio@mx.biwa.ne.jp  
■ホームページ：<http://www.biwa.ne.jp/~nio/>  
■ライブ映像：琵琶湖  
<http://www.sizenken.biodic.go.jp/pc/live/html/index.html>（インターネット自然研究所）



琵琶湖と水鳥

### ■地域の特性

琵琶湖は面積6万6千ha余りもある国内最大の湖です。なかでも東北部に位置する湖北町の湖岸一帯は景色も素晴らしい、多くの水鳥が生息する貴重な場所となっています。ヨシ原や小さな島が点在する琵琶湖水鳥湿地センター前は「湖北町水鳥公園」に指定され、水鳥たちの絶好のすみかとなっています。琵琶湖に渡来するコハクチョウの8割以上と、天然記念物に指定されているオオヒシケイのほとんどが、この地で越冬します。

### ■施設

#### 1. 展示

伊吹山から琵琶湖湖底までの野生生物の生息分布をパノラマイラストと音声、水鳥の剥製で紹介しています。また世界でも有数の歴史を持つ、琵琶湖ならではの独特な漁法についても紹介されています。3階に設置された水鳥生態自動撮影カメラでは、野外の鳥を撮影し、マルチビジョンで見ることができます。またビデオ鑑賞等も可能です。

#### ■活動の概要

##### 1. 調査・研究

一年を通して、センター周辺の鳥類、コハクチョウ、

オオヒシケイ、冬期ガンカモ類など、鳥類情報の収集・集積のための調査を行っています。また年間30～40羽の傷病鳥の保護活動も行っています。

#### 2. 普及啓発活動

毎月開催する定例観察会、鳥のお話の会のほか、バードウォッチング講座や写生会、水鳥写真コンテスト、愛鳥週間ポスターコンテストなどの開催を通じて、琵琶湖の自然や水鳥に対する理解を深めていただくよう活動しています。また各種講演会、地元小中学校の環境学習への協力も行っています。



展示室の様子

琵琶湖の夕景

## Manko Waterfowl and Wetland Center 漫湖水鳥・湿地センター



漫湖水鳥・湿地センターは、平成11年に「ラムサール条約」に登録された漫湖において、水鳥をはじめとする野生生物の保護と湿地の保全、賢明な利用について理解を深めていくための普及啓発活動や調査研究、観察などを行う拠点施設として設置されました。



■開館時間：午前9時～午後5時  
■休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始、慰霊の日（6月23日）  
■住所：沖縄県豊見城市字豊見城982  
■電話：098-840-5121  
■管理協力：沖縄県、那覇市、豊見城市  
■メールアドレス：manko\_mizudori@ybb.ne.jp  
■ホームページ：[http://www.geocities.jp/manko\\_mizudori/](http://www.geocities.jp/manko_mizudori/)



クロツラヘラサギ

います。

#### 2. 普及啓発活動

大型映像・館内の展示等の案内・解説を行うとともに、年数回の自然観察会や自然講座を行っています。また、夏休み期間には、小中学生にアート教室等も実施しています。

さらに、センター行事や水鳥・湿地の情報を伝える「漫湖水鳥・湿地センターだより」を毎月発行しています。



大型テレビ



展望コーナーの様子

### ■地域の特性

漫湖は、那覇市と豊見城市を流れる国場川と饒波川の合流地点に形成された河口干潟で、全国的に有名なシギ・チドリ類の渡りの中継地として、また、多くの水鳥等の生息地として知られています。

### ■施設の概要

センター内は、エントランスホール、展示室、レクチャーホーム、図書コーナー、観察展望コーナー等に分かれています。ホールは開放的で、壁面には漫湖周辺の生き物をイメージしたイラストを、吹き抜け空間には鳥のモビールを展示しています。企画展示コーナーでは、野鳥写真展や子どもたちの作品展等も行います。展示室では超望遠ビデオカメラがとらえた湿地の映像を大型画面で見ることができます。展望コーナーでは湿地を望む大パノラマが広がり、観察した鳥類を調べる図書コーナーと繋がっています。

また、レクチャーホームは各種の会議、自然とのふれあい推進などの場として活用することができます。

### ■活動の概要

#### 1. 調査・研究

一年を通して、漫湖周辺の鳥類情報の収集を行って

## Moriyoshisan Wildlife Center 森吉山野生鳥獣センター

野生鳥獣センターは、国指定森吉山鳥獣保護区を含む森吉山一帯を訪れる人々に、当該地域における人の利用の適正化や野生鳥獣の生態等に関する普及啓発活動、鳥獣の生息に適した環境の保全・形成を行うための拠点施設として設置されました。



東側レクチャー広場から



地区内の森林

- 開館時間：午前9時～午後4時30分
- 休館日：冬期間（11月1日～5月31日）
- 住所：秋田県北秋田市森吉町森吉字森吉山麓高原1-2
- 管理協力：森吉山野生鳥獣センター運営協議会



Moriyoshisan Wildlife Center

### ■地域の特性

森吉山は秋田県の中央東部に位置し、森吉町と阿仁町にまたがる地域です。当山はブナ林やアオモリトドマツの原生林等豊かな森林が広がっています。特に当山東方に広がる豊かな森林は本州では数少ないクマゲラの繁殖地となっています。

### ■施設の概要

センター内は、展示ホール、映像室、ラウンジ等に分かれています。展示ホール、映像室では、当該地域特有の生き物の営みや森林地域の自然の仕組みを映像などで分かりやすく解説しています。また、視覚に障害のある方のために、床に落ち葉や木の実をかたどった造形物をはじめ込み、展示室を誘導するプロックを配置しています。屋外には、自然とふれあいながら観察等が出来るよう歩道を設置しています。

さらに、建物の構造材への木材利用、電力の一部にソーラー発電の利用、トイレ用洗浄水への雨水利用、外装舗装への透水性インターロッキング舗装仕様など、環境との共生に配慮した設備となっています。

### ■活動の概要

#### 1. 調査・研究

周辺地域に生息する鳥獣の生息状況などの調査を実施します。

#### 2. 普及啓発活動

展示施設、周辺森林を活用した自然観察会や勉強会等を実施します。また、パンフレット等を作成し、地域住民を含めた一般来訪者に、森吉山周辺の貴重性や保護の重要性を理解して頂くための活動を行います。



展示ホール



クマゲラ

## Shirakami-sanchi World Heritage Conservation Center(Nishimeya) 白神山地世界遺産センター(西目屋館)

白神山地世界遺産センター(西目屋館)は、屋久島とともに平成5年に世界遺産に登録された白神山地世界遺産地域の保全管理及び自然環境に関する調査研究等の拠点施設として設置されました。「展示・資料コーナー」では、世界遺産条約の概念や、白神山地の自然に関する展示も行っています。



- 開館時間：午前8時30分～午後5時
- 休館日：毎週土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始
- 住所：青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1
- 電話：0172-85-2622



ブナの森

るよう、実験室や研究室、標本庫などがあります。

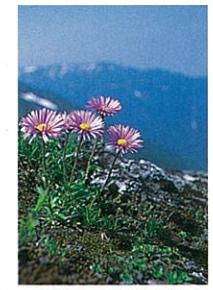
### ■活動の概要

#### 1. 保全・管理及び調査・研究

白神山地世界遺産地域連絡会議の構成員として、関係機関等との連絡調整及び巡回業務を行なうながら保全管理業務を行っています。また長期にわたる自然環境の変化を把握するため、核心地域内にモニタリングサイトを設け、地形・気象・大気環境・植物・動物等広範囲にわたる調査研究を行っています。また世界遺産に登録されたことによる地域社会への社会的・経済的影响等についても調査を実施しています。

#### 2. 普及啓発活動

地域住民の方々や、学校の生徒たちを対象とし白神山地世界遺産地域の普及啓発や、自然観察会の開催等を実施しています。また子供たちの自然に対する理解と愛情を育むため、子供たちを対象とした事業を実施しています。



ミヤマアズマギク

## Shirakami-sanchi World Heritage Conservation Center(Fujisato)

### 白神山地世界遺産センター(藤里館)



白神山地世界遺産センター(藤里館)は、平成5年に、屋久島とともに世界遺産に登録された、白神山地世界遺産地域に関する情報提供、普及啓発活動の拠点施設として設置されました。



■開館時間：午前9時～午後5時  
■休館日：毎週火曜日（祝祭日の場合は翌日）  
年末年始  
■住所：秋田県山本郡藤里町藤琴字里栗63  
■電話：0185-79-3001



岳岱ブナの紅葉

#### ■地域の特性

秋田県の北端にある藤里町は町全体の9割近くが山林・原野で、山岳、滝、渓谷、湿原など多様な景観に恵まれています。白神山地世界遺産登録地域の4分の1が藤里町に属し、藤里館が秋田側の玄関口となっています。

#### ■施設

##### 1. 展示

世界遺産条約や白神山地について多くの方々に理解していただくための展示をしています。壁面には大きな世界地図が描かれ、各国の世界遺産および日本の世界遺産について、その位置やリストを表示しています。また白神山地については写真による紹介をしています。付属の多目的ホールではビデオ、スライド、OHPなどを利用した会議、ミーティング等ができるスペースを確保しています。

#### ■活動の概要

##### 1. 普及啓発活動

地域社会・学校などを対象として、白神山地世界遺産地域の普及啓発や自然観察会の開催等を行っています。また子供たちの自然に対する理解と愛情を育むた

めに、子供たちを対象とした事業を実施しています。特に自然とのふれあいにはルールやマナーがあることを環境学習の重点としてとりあげ、観察会等も開催しています。



ウラジロコヨウラク ©工藤茂美



展示室の様子



岳岱の400年ブナ

## Yakushima World Heritage Conservation Center

### 屋久島世界遺産センター



屋久島世界遺産センターは、平成5年に、白神山地とともに世界遺産に登録された、屋久島の保全・管理、調査研究、普及啓発活動の拠点施設として設置されました。



■開館時間：午前9時～午後5時（入館は4時半まで）  
■休館日：毎週土曜日（12月～2月の期間）  
年末年始（12月28日～1月3日）  
■住所：鹿児島県熊毛郡屋久島安房前岳2739-343  
■電話：0997-46-2992



ヤクシカ

#### ■地域の特性

屋久島は本州最南端から南方約60km離れた海上に浮かぶ山岳島で、別名「洋上アルプス」と呼ばれます。島の中央部にある九州最高峰の宮之浦岳(1,936m)を主峰として1,000mを超える山々が連座しています。温暖多雨な気候によって育まれた豊かな自然が、樹齢数千年に及ぶと言われるヤクスギや、ヤクシマシャクナゲ等の植物を育てました。また原始性豊かな環境はヤクシマザルやヤクシカ、アカヒゲ、カラスバトなどの野生生物の絶好の生息地となり、面積の小さな島としてはきわめて豊富な動植物相を持っています。

#### ■施設

##### 1. 展示

入口から入ると直ぐに常設展示スペースがあり、屋久島のすぐれた自然環境や利用のための注意事項などの情報が入手できます。

また、向かって左側にインフォメーションカウンター（自然保護官事務所に繋がっています）があり、屋久島の旬の情報や登山に関する諸情報などが入手できます。向かって右側は、多目的ホールになっており、企画展示や検討会、種々の打ち合わせなどに利用されています。2階は、調査・研究スペースとなっており

般には開放されていませんが、大学の研究者などがフィールド調査を行う際に利用しています。

#### ■活動の概要

##### 1. 調査・研究

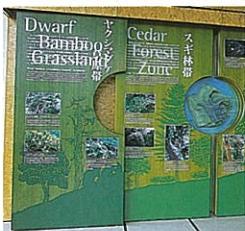
国立公園及び原生自然環境保全地域（世界遺産登録地域が含まれます）の保全・管理のため、また屋久島全体の生態系保全のため、大学などの研究機関と協力して調査研究を進めています。

研究結果は、保護地域の区域拡張や保護及び利用計画の変更などに役立てられます。

##### 2. 普及啓発活動

調査・研究結果を広く知りたいために、研究者などによる発表会を随時開催しています。

また、地域社会と連携して企画展示会を開催したり、屋久島環境文化財団・上屋久町・屋久町との共催で定期的に自然観察会を開催しています。



展示室の様子

## International Coral Reef Research and Monitoring Center

# 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター

国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターは、国際的なサンゴ礁保全の枠組みである国際サンゴ礁イニシアティブ（ICRI）を推進することを目的として設置されました。主としてサンゴ礁生態系のモニタリング調査を実施していくための拠点施設として活用されています。



- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：土、日、祝、年末年始
- 住所：沖縄県石垣市八島町
- 電話：0980-82-4902
- ホームページ：<http://www.coremoc.go.jp/>



沖縄の海

### ■目的

「海の熱帯林」とも呼ばれるほど生物多様性の豊かなサンゴ礁の保全については、国際的にも緊急の課題とされており、平成7年には、サンゴ礁保全のための包括的な国際プログラムである国際サンゴ礁イニシアティブ（ICRI）が開始されました。ICRIの主要な活動の一つが、地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク（GCRMN）の構築で、当施設は東アジア海地域におけるGCRMNの拠点としての役割を果たすことを目的としています。

### ■施設

#### 1. 実験室・標本室

サンゴ礁の保全のためには、サンゴ礁の現況やサンゴ礁生態系をとりまく環境要因に関する情報収集が前提であり、そのためのモニタリング調査が当センターの主たる業務です。野外でのモニタリング調査の拠点として活用できるように、実験室や標本室などが整備されています。

#### 2. 多目的レクチャーリーム

サンゴ礁に関する会議や、特別展示、講演会などを行うことができるよう、多目的に使えるレクチャーリームが併設されています。

### ■活動の概要

#### 1. サンゴ礁に関する情報の収集・整理・提供

サンゴ礁関係の文献や、当センターを拠点として行われているモニタリング調査結果、関係する研究機関・団体等についてのデータベースを作成・管理するとともに、サンゴ礁関係の図書や標本の整備などを進めています。

#### 2. サンゴ礁モニタリング調査

センターが中心となって行政レベルでのモニタリング調査を行っているほか、研究者レベル・市民レベルのモニタリング調査の推進・支援を行っています。

#### 3. 普及啓発活動

サンゴ礁生態系の価値・重要性、保全の必要性等に関する展示などを行っているほか、地域の子供達等を対象に教育プログラムを実施しています。



サンゴ礁群落



International Coral Reef Research and Monitoring Center

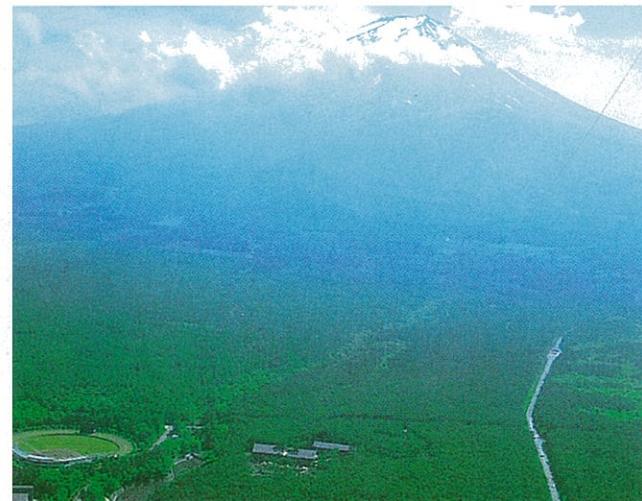
## Biodiversity Center of Japan

# 生物多様性センター

生物多様性センターは、「調査」「情報」「標本資料」「普及啓発」の4つの機能を総合的に発揮し、生物多様性の保全を図るために人・情報のネットワーク作りを推進するための拠点として、設置されました。



- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：夏期（5月～10月）祝日（ただし土・日曜日と重なる場合は開館）  
冬期（11月～4月）土・日曜日、祝日、年末年始
- 住所：山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1
- 電話：0555-72-6031
- ホームページ：<http://www.bodic.go.jp/>



富士山の北麓を望む

### ■地域の特性

生物多様性センターは富士山の北麓、標高1,000mのなだらかな傾斜地に生育するアカマツ林の中に位置します。周辺では、溶岩流が残した風穴、氷穴、溶岩樹型が見られます。

### ■施設

#### 1. 展示

一般の方々にも見ていただける展示室と、図書資料閲覧室が設置されています。展示室ではツキノワグマとオオコノハヅクが案内役になり、「生物多様性とはなにか」をわかりやすく説明します。また展示パネルと映像で、日本の自然環境や生物多様性の保全に関する現状と変化を見ることができます。図書資料閲覧室では、自然環境保全基礎調査の報告書などを公開しています。

### ■活動の概要

#### 1. 情報集積

自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）を企画・実施し、日本の自然環境の現況とその変化を把握するため、植生、動植物の分布、河川・湖沼等の陸水域・干潟・サンゴ礁の海域などを対象に全国レベルでの基礎的な調査を行なっています。

### 2. 情報発信

生物多様性情報システム（J-IBIS）を構築し、自然環境保全基礎調査により集積された成果、収集した動植物標本、生物多様性に関する各種文献資料などの情報をデータベース化し、インターネットにより広く情報発信しています。（<http://www.bodic.go.jp/J-IBIS.html>）

### 3. 普及啓発活動

収集・保管した各種資料の公開を行っています。また展示室やホームページで日本の自然環境・生物多様性の現状や、その保全に向けての取り組みなどを紹介しています。隣接している山梨県環境科学研究所をはじめ、富士山北麓地域にある環境学習施設と連携し、相互に施設の案内、イベント情報の提供などを行っています。



情報解析室



展示室の様子

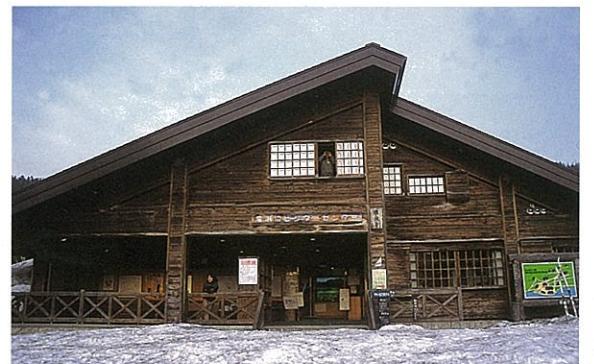
## Visitor Center

# 自然公園のビジターセンター

自然公園（国立公園、国定公園、都道府県立自然公園）を訪れた方々に、その公園の自然や歴史を理解していただき、より深く自然とふれあえるように、解説や情報提供を行う施設です。ビジターセンターでは、様々な展示やスライド・ビデオなどでその公園の紹介やガイドを行なっているほか、自然観察会やクラフト教室など、さまざまな行事が行なわれています。「エコ・ミュージアムセンター」やふれあい自然塾の「自然体験ハウス」もビジターセンターのひとつです。



雲仙温泉ビザーセンター (雲仙お山の情報館)



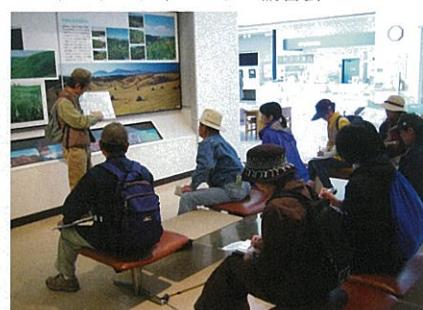
尾瀬沼ビザーセンター

地域の草花のパネル



えびのエコ・ミュージアムセンター

パークボランティアによる講習会



南阿蘇ビザーセンター

鳴声が出る地域の鳥の展示



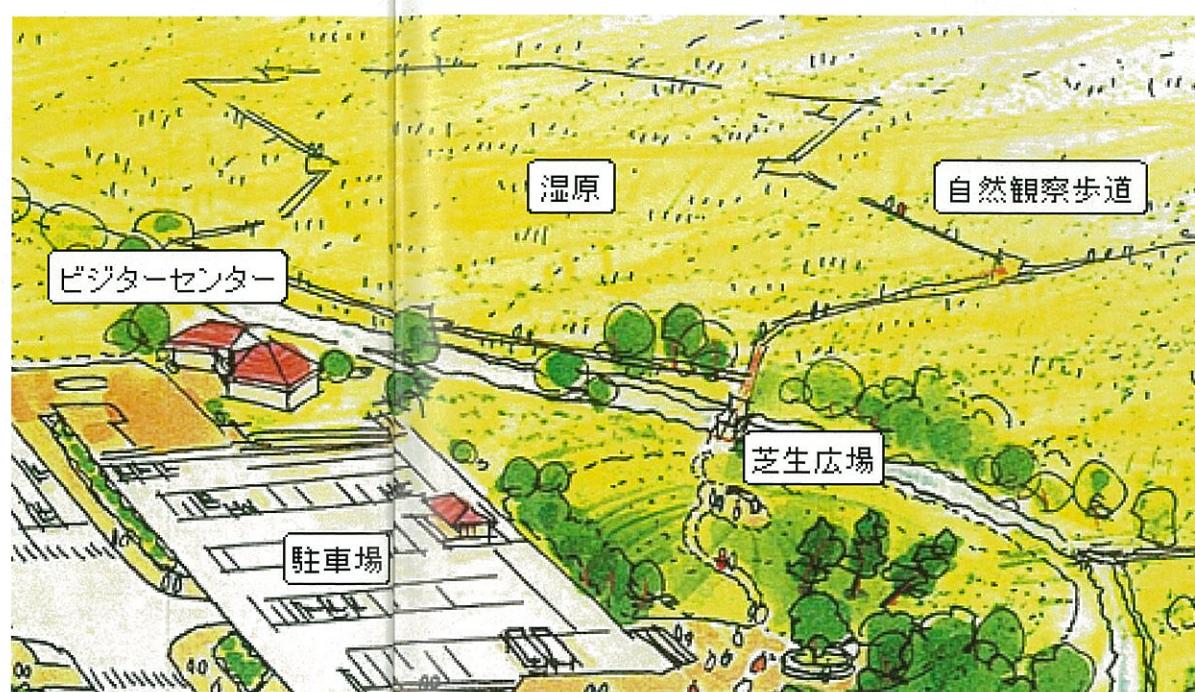
箱根ビザーセンター

火山のジオラマ



雲仙温泉ビザーセンター

■ビザーセンターのイメージ (長者原ビザーセンター)

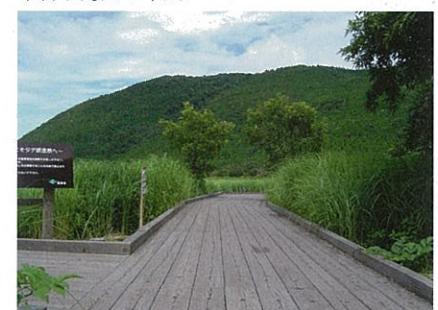


触って楽しめる解説看板



南阿蘇ビザーセンター

車椅子対応の木道



長者原エコ・ミュージアムセンター

## ■エコ・ミュージアムセンター

展示などによる解説や情報提供を行うビジターセンターとあわせて、野外で実際に地域の自然をより身近にわかりやすく紹介し、自然観察などを行うことができる「エコ・フィールド」が整備されています。センターの中には、自然観察を行うスタッフが、家族などの小単位のビジターを対象に展示の解説や野外観察などを行っているところもあります。

エコ・フィールドの旬の情報掲示板



塘路湖エコ・ミュージアムセンター

## ■ふれあい自然塾

自然体験ハウスや宿泊施設に加えて、自然とのふれあいに重点を置いた専門スタッフによる自然体験プログラムをあわせ持つハード・ソフト一体型の施設です。自然を体験することを通じて、自然を楽しみ、学ぶことから、環境保全への关心を高め、それを日常の行動に結びつけることができるよう、様々な自然体験プログラムを実施しています。



田貫湖ふれあい自然塾

## ■田貫湖ふれあい自然塾 (富士箱根伊豆国立公園内)

〒418-0107 静岡県富士宮市佐折633-14  
TEL : 0544-54-5410 FAX : 0544-54-6400  
<http://www.tanukikoji.gr.jp/>

## ■里山の紀泉わいわい村 (金剛生駒紀泉国定公園内)

〒590-0511 泉南市信達葛畠207番地  
TEL : 0724-85-0661 FAX : 0724-85-0662  
<http://www.osakaymca.or.jp/shisetsu/kisenwaaimura/index.html>

## ■ふれあい自然塾ひぜん (玄海国定公園内)

〒847-1507 佐賀県東松浦郡肥前町大字満越886-3  
TEL : 0955-51-9088 FAX : 0955-51-9077  
<http://www15.ocn.ne.jp/~hureai-h/>

## 国立公園のビジターセンター一覧

利尻礼文サロベツ国立公園	
① サロベツ原生花園自然教室	北海道天塩郡豊富町
② 幌延ビジターセンター	北海道天塩郡幌延町
知床国立公園	
③ 羅臼ビジターセンター	北海道目梨郡羅臼町
① 知床自然センター	北海道斜里郡斜里町
阿寒国立公園	
④ 川湯エコミュージアムセンター	北海道川上郡弟子屈町
⑤ 阿寒湖畔エコミュージアムセンター	北海道阿寒郡阿寒町
② マリモ展示観察センター	北海道阿寒郡阿寒町
大雪山国立公園	
⑥ 層雲峠ビジターセンター	北海道上川郡上川町
③ 旭岳ビジターセンター	北海道上川郡東川町
支笏洞爺国立公園	
⑦ 支笏湖ビジターセンター	北海道千歳市
④ 洞爺湖森林博物館	北海道有珠郡壯瞥町
釧路湿原国立公園	
⑧ 温根内ビジターセンター	北海道阿寒郡鶴居村
⑨ 塙路湖エコミュージアムセンター	北海道川上郡標茶町
十和田八幡平国立公園	
⑩ 十和田ビジターセンター	青森県上北郡十和田湖町
⑪ 八幡平ビジターセンター	秋田県鹿角市
⑤ 玉川温泉ビジターセンター	秋田県仙北郡田沢湖町
陸中海岸国立公園	
⑫ 宮古ビジターセンター	岩手県宮古市
⑥ 唐桑半島ビジターセンター	宮城県本吉郡唐桑町
磐梯朝日国立公園	
⑬ 月山ビジターセンター	山形県東田川郡羽黒町
⑭ 浄土平ビジターセンター	福島県福島市
⑮ 裏磐梯ビジターセンター	福島県耶麻郡北塙原村
⑦ 山形県立自然博物園	山形県西村山郡西川町
⑧ 浄土平天文台	福島県福島市
日光国立公園	
⑯ 日光湯元ビジターセンター	栃木県日光市
⑩ 栃木県立日光自然博物館	栃木県日光市
⑪ 塩原温泉ビジターセンター	栃木県那須郡塩原町
尾瀬国立公園	
⑯ 尾瀬沼ビジターセンター	福島県南会津郡檜枝岐村
⑨ 尾瀬山の鼻ビジターセンター	群馬県利根郡片品村
上信越高原国立公園	
⑯ 鹿沢イフネーションセンター	群馬県吾妻郡嬬恋村
⑯ 笹ヶ峰ミニビジターセンター	新潟県中頸城郡妙高高原町
⑫ 草津温泉ビジターセンター	群馬県吾妻郡草津町
⑯ 妙高高原ビジターセンター	新潟県中頸城郡妙高高原町
⑯ 志賀高原自然保護センター	長野県下高井郡山ノ内町
秩父多摩甲斐国立公園	
⑯ 三峰ビジターセンター	埼玉県秩父郡大滝村三峰
⑯ 奥多摩ビジターセンター	東京都西多摩郡奥多摩町
⑰ 山のふるさと村ビジターセンター	東京都西多摩郡奥多摩町川野
⑯ 御岳ビジターセンター	東京都青梅市
小笠原国立公園	
⑯ 小笠原ビジターセンター	東京都小笠原村
中部山岳国立公園	
⑯ 上高地ビジターセンター	長野県南安曇郡安曇村
⑯ 立山自然保護センター	富山県中新川郡立山町
⑯ 長野県乗鞍自然保護センター	長野県南安曇郡安曇村
⑯ 飛驒・北アルプス自然文化センター	岐阜県吉城郡上宝村
⑯ 榛平ビジターセンター	富山県下新川郡宇奈月町

<b>富士箱根伊豆国立公園</b>	
21 箱根ビジターセンター	神奈川県足柄下郡箱根町
22 田貫湖ふれあい自然塾	静岡県富士宮市
24 八丈ビジターセンター	東京都八丈町
25 森のふれあい館	神奈川県足柄下郡箱根町
26 富士ビジターセンター	山梨県南都留郡富士河口湖町
<b>白山国立公園</b>	
23 市ノ瀬ビジターセンター	石川県石川郡白峰村
27 中宮展示館	石川県石川郡吉野谷村
28 白山室堂センター	石川県石川郡白峰村
<b>伊勢志摩国立公園</b>	
24 横山ビジターセンター	三重県志摩郡阿児町
29 登茂山ビジターセンター	三重県志摩郡大王町
30 鳥羽ビジターセンター	三重県鳥羽市
<b>吉野熊野国立公園</b>	
25 大台ヶ原ビジターセンター	奈良県吉野郡上北山村
31 洞川エコミュージアムセンター	奈良県吉野郡天川村
32 吉野山ビジターセンター	奈良県吉野郡吉野町
<b>山陰海岸国立公園</b>	
26 竹野スノーケルセンター・ビジターセンター	兵庫県城崎郡竹野町
33 山陰海岸自然科学館	鳥取県岩美郡岩美町
<b>瀬戸内海国立公園</b>	
27 大久野島ビジターセンター	広島県竹原市
28 五色台ビジターセンター	香川県坂出市
34 大鳴門橋記念館	兵庫県三原郡西淡町、南淡町
35 鷲羽山ビジターセンター	岡山県倉敷市
36 大鳴門橋架橋記念館	徳島県鳴門市
<b>竹富島ビジターセンター</b>	竹富島
<b>大山隠</b>	
	
<b>凡例</b>	
■ 国立公園区域	

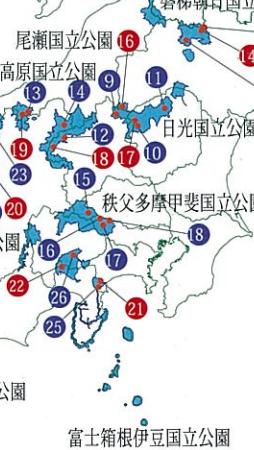
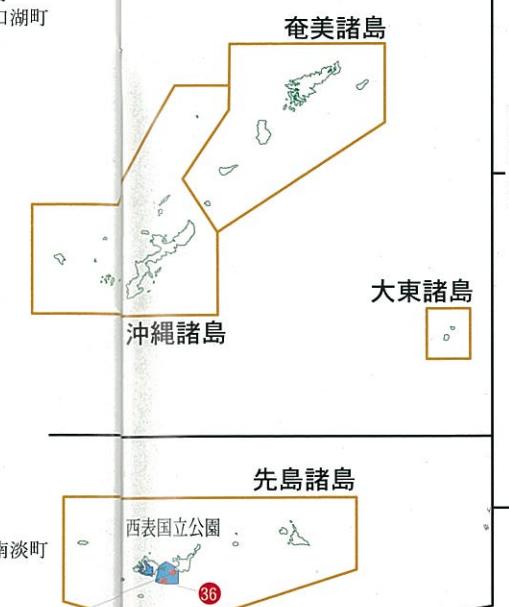


竹齋集



凡例

國立公園區域



本一覧表に掲載される施設は、国立公園内におけるビジターセンターとして機能を有する施設を表しており、●は国が直接管理する施設、○はその他都道府県等の施設を示しています。また、これ以外にも展示機能など地域の特徴を活かした施設があります。



This map illustrates the locations of various national parks in Japan's Kyushu and Shikoku regions, each accompanied by a photograph of its respective visitor center. The parks and their visitor centers are as follows:

- 1. 球磨川源流国立公園  
球磨川源流ビジターセンター
- 2. 岬延ビジターセンター
- 3. 知床国立公園  
知床ビジターセンター
- 4. 阿寒国立公園  
阿寒ビジターセンター
- 5. 大雪山国立公園  
大雪山ビジターセンター
- 6. 黑岳ビジターセンター
- 7. 洞爺国立公園  
洞爺ビジターセンター
- 8. 鈴鹿山脈  
鈴鹿山脈ビジターセンター
- 9. 鉢伏湿原  
鉢伏湿原ビジターセンター
- 10. 温根内  
温根内ビジターセンター
- 11. 八幡平  
八幡平ビジターセンター
- 12. 陸中海岸  
陸中海岸ビジターセンター
- 13. 月山  
月山ビジターセンター
- 14. 大山・隠岐  
大山・隠岐ビジターセンター
- 15. 大山  
大山自然科学館  
三瓶自然館サヒメル
- 16. 烏冬  
烏冬ビジターセンター
- 17. 足摺宇和海  
足摺宇和海ビジターセンター
- 18. 竜串海中展望塔  
竜串海中展望塔
- 19. 西海  
西海ビジターセンター  
鎧瀬ビジターセンター
- 20. 雲仙天草  
雲仙お山の情報館  
雲仙諫訪の池ビジターセンター
- 21. 平成新山  
平成新山ビジターセンター
- 22. 天草  
天草ビジターセンター
- 23. 富岡  
富岡ビジターセンター
- 24. 田代原  
田代原レイセンター
- 25. 阿蘇くじゅう  
南阿蘇ビジターセンター  
長者原ビジターセンター
- 26. 阿蘇  
阿蘇火山博物館
- 27. 霧島屋久  
えびのエコミュージアムセンター  
高千穂河原ビジターセンター
- 28. 桜島  
桜島ビジターセンター
- 29. 西表  
竹富島ビジターセンター  
黒島ビジターセンター

国民公園とは、国の直接管理のもとに、広く国民一般に開放され利用されている公園です。戦前は旧皇室苑地であった皇居外苑、新宿御苑、京都御苑の3ヶ所が、昭和22年12月の閣議決定を受けて、昭和24年から国民公園として開放されています。また皇居外苑北の丸公園は昭和44年に編入されました。

現在これらの公園は、それぞれの特性を踏まえ、歴史的雰囲気、美観、静穏を保持しながら維持管理が行われています。

## ■皇居外苑

クロマツの点在する大芝生広場と、江戸城のたたずまいを残す濠、城門などの歴史的建造物とが調和し、わが国を代表するシンボル的な公園として親しまれています。江戸城の城郭は、その規模においてもわが国随一のもので、歴史的な価値が高く、その名残りを最も留めている濠部を中心に「特別史跡江戸城跡」として文化財に指定されています。



## ■北の丸公園

昭和30年代後半に、旧近衛連隊等の多くの建物を撤去し、森林公園として造成されたものです。外周部は皇居の森と一体感を保つため、クスノキ、タブノキ、スダジイ等の常緑樹が植栽されています。

中央部には明るい芝生地と池が配置され、その周辺にはヤマモミジ、ケヤキ、コナラ、クヌギ等の落葉樹や花木があり、野鳥が好む「実のなる木」が多く植えられ、秋には美しい紅葉が見られます。



## ■新宿御苑

新宿御苑は、周囲3.5km、面積58.3haの広大な敷地に、バラ花壇を中心にプラタナスの並木を配したフランス式整形庭園と、芝生広場にユリノキなどの巨樹やサクラを配したイギリス風景式庭園、それに日本庭園が巧みに配置された明治時代の代表的庭園です。春には75種・1500本のサクラが約1ヶ月にわたり人々を楽しませます。



## ■京都御苑

京都御所の周囲に広がる京都御苑は、由緒ある歴史と豊かな自然に恵まれた、都会の中のオアシスです。敷き砂利の広い苑路と築地堀、芝生と松林で構成された景観は、京都御苑を代表する風景として親しまれています。



### ■北海道地方環境事務所

〒060-0808 札幌市北区北8条西2丁目札幌第1合同庁舎3F TEL011-299-1950 FAX011-736-1234  
管轄区域 北海道から釧路自然環境事務所の管轄区域を除いた区域

#### ★釧路自然環境事務所

〒085-8639 北海道釧路市幸町10-3 釧路地方合同庁舎4階

TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

管轄区域 北海道のうち、釧路市、北見市、網走市、紋別市、根室市、網走郡、斜里郡、常呂郡、紋別郡、釧路郡、厚岸郡、川上郡、阿寒郡、白糠郡、標津郡、野付郡、日高郡

### ■東北地方環境事務所

〒980-0014 仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第二合同庁舎6F TEL022-722-2870 FAX022-722-2872  
管轄区域 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

### ■関東地方環境事務所

〒330-6018 さいたま市中央区新都心11-2 明治安田生命さいたま新都心ビル18F TEL048-600-0516 FAX048-600-0517  
管轄区域 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、静岡県

### ■中部地方環境事務所

〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-5-2 TEL052-955-2130 FAX052-951-8889

管轄区域 石川県、福井県、岐阜県、愛知県、三重県

#### ★長野自然環境事務所

〒380-0846 長野県長野市旭町1108 長野第一合同庁舎 TEL026-231-6570 FAX026-235-1226

管轄区域 富山県、長野県

### ■近畿地方環境事務所

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 大阪マーチャンダイズマート(OMM)ビル8F TEL06-4792-0700 FAX06-4790-2800  
管轄区域 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

### ■中国四国地方環境事務所

〒700-0984 岡山県岡山市桑田町18-28 明治安田生命岡山桑田町ビル1、4F TEL086-223-1577 FAX086-224-2081  
管轄区域 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

#### ★高松自然環境事務所

〒760-0023 香川県高松市寿町2-1-1 高松第一生命ビル新館6F TEL087-811-7240 FAX087-822-6203

管轄区域 徳島県、香川県、愛媛県、高知県

### ■九州地方環境事務所

〒862-0913 熊本県熊本市尾ノ上1-6-22 TEL 096-214-0311 FAX 096-214-0354

管轄区域 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県。鹿児島県から那覇自然環境事務所の管轄区域を除いた区域

#### ★那覇自然環境事務所

〒900-0027 沖縄県那覇市山下町5-21 沖縄通関社ビル4F TEL098-858-5824 FAX098-858-5825

管轄区域 鹿児島県のうち、名瀬市、大島郡。沖縄県